

近代 10 条約改正の POINT

まず、条約改正交渉にあたった中心人物、岩倉具視から小村寿太郎までの名を順におさえること。あとは、この中心人物ごとに、交渉の条件・交渉失敗の理由・国際的背景をまとめておけばよい。このテーマの出題箇所はほぼ決まっているので対策は立てやすい。自由民権運動との絡みもあり、井上馨外相の改正交渉に関する出題が多い。

NO61 条約改正 早稲田(商)2008

日本にとって幕末以来の懸案時であったイ不平等条約が 1911 年に完全に解消された。事の発端であるロ日米修好通商条約は 1858 年に締結されたが、それから実に半世紀以上の時が経過していた。このことは、条約改正作業が如何に困難を極めたかを物語っている。

交渉は一時的に進捗しかけたことも何度かあったが、その都度頓挫した。まずハ 1871 年の岩倉使節団による交渉であるが、不調に終わった。次にニ 1873 年に外務卿就任以来、さまざまな外交交渉で手腕を発揮していた寺島宗則がこの問題に取り組んだが決着を付けるには至らなかった。ホ寺島の職を 1879 年に継いだ井上馨は引き続きこの問題に取り組んだが国内の反発も強く成果をあげるまでには至らなかった。ヘ 1888 年以降交渉役になったのは、1898 年に首相に就任することになる人物だが、この人物による交渉も国民の不興を買い、自らの右足を暴徒に奪われた上、交渉は挫折した。ト 1889 年には欧州駐在経験を持つ外交官青木周蔵が外務大臣に就任し、以後交渉に尽力するようになる。しかし、大津事件という思わぬ事態に見舞われ、青木は辞職を余儀なくされ、交渉は打ち切りになってしまう。チそうした事態が大きく前進したのは、1892 年に榎本武揚から外務大臣職を引き継いだ人物の時期である。その後、リ日露戦争に勝利することなどを通じて、世界における日本の存在感は高まっていく。しかしその一方で、又日本は欧米諸国との間での最終決着がつく前の段階から、朝鮮に対して数々の「不平等な」条約を押し付けるようになっていた。そしてその矛先はやがて中国にも向けられるようになる。

問 A 下線部イについて述べた記述として間違っているものを 2 つマークせよ。

1. この時点で日本の外務大臣は、ポーツマス条約締結時に日本全権を務めた人物である。
2. 交渉に際して最後まで問題になったのは「関税自主権」についてであった。
3. 南満州鉄道株式会社の設立はこの年よりも後のことであった。
4. この時点での日本の総理大臣は桂太郎であった。
5. この時点で既に第一次護憲運動が展開されていた。

誤文→関税自主権の回復は 1911 年。ポーツマス条約全権は小村寿太郎。南満州鉄道株式会社は 1906 年に設立された。

岩倉使節団 早稲田(商)2008

岩倉使節団について述べた記述として誤っているものを 2 つ選べ。

1. 使節団には女子留学生も含まれていた。
2. 大久保利通は使節団の副使の一人だった。
3. 徴兵令は使節団が日本を出発する前に公布された。
4. 使節団の最初の訪問国はアメリカだった。

5. 太陽暦は使節団が日本に帰国した後で採用された。

誤文→3・5。徴兵令が公布されたのは 1873 年であり、岩倉使節団が出発した【後】である。太陽暦は 1872 年に採用した。岩倉使節団の出発は 1871 年、帰国は 1873 年である。2 年間使節団は視察を行っていたことを記憶せよ。

寺島宗則 早稲田(商)2008

寺島宗則について述べた記述として誤っているものを 2 つ選べ。

1. 樺太・千島交換条約の締結は寺島が在任中のことである。
2. 日朝修好条規の締結は寺島が在任中のことではない。
3. 寺島が在任中に職名が外務卿から外務大臣に変更された。
4. 条約改正交渉で関税自主権についてはアメリカとの間で合意が成立したが、他の条約調印国の反対で交渉は失敗に終わった。
5. 西南戦争が勃発したのは寺島が在任中のことだった。

誤文→1・5。寺島宗則は 1876 年に外務卿就任、アメリカと交渉して関税自主権回復の交渉にほぼ成功したが、イギリス、ドイツなどの反対で無効となった。西南戦争は 1877 年勃発。

井上馨 早稲田(商)2008

井上馨について述べた記述として誤っているものを 2 つ選べ。

1. 井上は「欧化政策」を積極的に採用した。
2. ノルマントン号事件によって、国民の条約改正に対する関心が高まった。
3. 条約改正のための交渉は各国ごとにおこなわれた。
4. この交渉では、「外国人判事の任用」を認めたものの、「内地雑居」は認めなかった。
5. 保安条例はこの改正交渉への国民の反発に対する政府の対応策の一つだった。

誤文→井上馨は条約改正の主な課題を領事裁判権の撤廃に定め、その代償として内地雑居を認めた。その際、東京に列国の代表者を集めて一括交渉を行い、鹿鳴館などで舞踏会を開くなどの欧化政策を採用した。欧米同様の法典を編纂し、外国人判事を任用することを条件として進めたことに対し、政府内部では法律顧問ボアソナードや谷干城農商務相が国家主権を侵害すると批判し、民間でも三大事件建白運動が起こった。ノルマントン号事件により領事裁判権の不当さが明らかになったことから、国民の条約改正への関心が高まっていたことも背景にあった。政府は 1887 年、井上外相を辞職させるとともに保安条例を出して民権派を東京から追放し、反対運動の鎮静をはかった。誤文→3・4。

大隈重信 早稲田(商)2008

大隈重信について述べた記述として誤っているものを 2 つ選べ。

1. 条約改正のための交渉は各国ごとに行われた。
2. この人物が最初に外務大臣に就任したときの首相は松方正義だった。
3. 「大審院のみ」という限定はあったが、「外国人判事の任用」という条件をこの人物は認めていた。
4. この交渉に不満を持ち、辞職を以って抗議した閣僚がいた。
5. この人物は、初めて首相になった時点では憲政党に所属していた。

早慶への日本史

誤文→2・4

青木周蔵 早稲田(商)2008

青木周蔵について述べた記述として誤っているものを2つ選べ。

1. 青木が外務大臣に就任したときの首相は山県有朋であった。
2. この間、極東情勢の変化が交渉を進める日本に有利に働くようになっていった。
3. 青木の外務大臣在職中にはまだ帝国議会は開会していなかった。
4. 青木は「外国人判事の採用を認めない」という内容で交渉を進めた。
5. 青木は改正案に関してアメリカとの間で合意を成立させた。

誤文→3・4

青木周蔵は第1次山県内閣と第1次松方内閣で外相を務めた。領事裁判権の回復と関税自主権の一部回復を主眼

【内地雑居】だけを条件として領事裁判権の撤廃をイギリスと交渉し、成功の直前までこぎつけた。ロシアがシベリア鉄道建設を計画して極東への進出を本格化したのに対し、警戒したイギリスが日本にロシアの防壁としての役割を期待したことが背景にあった。しかし、1891年、来日中のロシア皇太子を警備の警官が襲う【大津事件】が生じたため辞職し、イギリスとの交渉は失敗に終わった。

問8 下線部子について述べた記述として誤っているものを2つ選べ。

1. この人物は第3次伊藤内閣の外務大臣であった。
2. イギリスとの交渉に当たっては、当時駐英公使だった青木周蔵も尽力した。
3. 「日英通商航海条約」の調印は、日清戦争勃発直後だった。
4. イギリス以外の国々とも同じ内容の条約を調印した。
5. 1899年に「日英通商航海条約」が実施されたことで内地雑居が実現した。

誤文→1892年、第2次伊藤博文内閣の成立とともに外相となったのは陸奥宗光で、1894年、日清戦争勃発直前、イギリスとの間で日英通商航海条約の調印に成功し、領事裁判権の撤廃、関税自主権の一部回復に成功した。施行は1899年で、それとともに居留地が廃止され、内地雑居が実現した。なお、ロンドンで交渉と条約の調印にあたったのは青木周蔵である。ア・ウが誤文。

問9 下線部又について、そのような条約の一つに日朝修好条規がある。日朝修好条規について述べた記述として誤っているものを2つ選べ。

1. 江華島事件が契機となって締結された。
2. 日本は釜山のほか2港の開港を認めさせた。
3. 朝鮮を独立国としたが、清国との朝貢関係の継続も認めた。
4. 日本は朝鮮の領事裁判権を認めた。
5. 日本は付属の通商章程によって無関税特権を獲得した。

誤文→日朝修好条規は、江華島事件を契機として1876年に締結された。日本は、朝鮮を「自主の邦」と規定することにより清国との宗属関係の否定をねらうとともに、釜山ほか

Pain is inevitable Suffering is optional

2港(仁川・元山)を開港し、日本人の朝鮮国内での自由な通商を認めること、日本に領事裁判権と無関税特権を認めることを規定した。誤文は→3・4。

担当者	首相	交渉内容など
【岩倉具視】		1871~73【岩倉使節団】
【寺島宗則】		【関税自主権】回復を主眼 アメリカ賛成、イギリス・ドイツ反対で失敗
【井上馨】	伊藤博文	【欧化政策】政策→鹿鳴館の建設、政府部内の反対 領事裁判権の回復、関税自主権の一部回復を主眼 改正草案…回復後、内地雑居・法典整備・過半数の外国人裁判官任用 1866×【ノルマントン号事件】→条約への不満拡大 国内の反発→ポアソナード・谷千城農商務省 【 】→井上、外相辞任
【大隈重信】	黒田清隆	領事裁判権の回復、関税自主権の一部回復を主眼 米・独・露と条約調印 「外国人裁判官を大審院に限り任用するをロンドンタイムス」がスクープ 大隈暗殺未遂で片足を失う→黒田内閣総辞職
【青木周蔵】	山県有朋 松方正義	領事裁判権の回復と関税自主権の一部回復を主眼 【内地雑居】だけを条件として領事裁判権の撤廃をイギリスと交渉し、成功の直前までこぎつけた。ロシアがシベリア鉄道建設を計画して極東への進出を本格化したのに対し、警戒したイギリスが日本にロシアの防壁としての役割を期待したことが背景にあった。しかし、1891年、来日中のロシア皇太子を警備の警官が襲う【大津事件】が生じたため辞職し、イギリスとの交渉は失敗に終わった。 →犯人の津田三蔵は法律に基づき無期徒刑
【陸奥宗光】	伊藤博文	1894【日英通商航海条約】…自由党の支持を受ける 領事裁判権撤廃、関税自主権の一部回復、居留地の廃止、 相互対等の最恵国待遇、1899年発効で有効期間は12年
【小村寿太郎】	桂太郎	1911【日米通商航海条約】締結 →関税自主権の回復に成功